

平成28年度 第2回久留米市生物多様性地域戦略検討委員会 議事録

1. 日 時 平成28年8月1日 月曜日 10時00分開会 12時00分閉会
2. 場 所 久留米市役所14階会議室
3. 出 席 検討委員会委員  
藤田 八暉、中畷 裕之、藤田 直子、永松 千枝、執行 則子、  
内田 良一、今田 利満（欠席委員0人）  
オブザーバー 山口 慶太（福岡県）  
事務局  
環境保全課長 谷川 克幸  
環境保全課、環境部総務

開会

藤田委員長挨拶

今日から8月ということでありましてけれども、前回の委員会の後、事務局には本当に精力的に素案作りに務めていただきました。また、後で紹介があると思いますが、7月21日に開催されました「生物多様性セミナー&ワークショップ」の時には藤田直子委員にご助力いただき、様々な意見が出されました。事務局の方はまだまだ作業があり進捗状況は五合目といったところでしょうか、この委員会での素案作りについては八合目あたりまで来たのではないかと思います。今日の委員会では、素案をできる限り完成に近い形までもっていけるようにしたいと思っていますので、ご審議の程をよろしくお願い申し上げます。

事務局

今回、委員のご欠席はありません。それでは、委員会の進行を藤田委員長にお願いいたします。

藤田委員長

今回、傍聴希望者はいらっしゃいましたか。

事務局

いらっしゃいませんでした。

藤田委員長

それでは、本日の配布資料について、事務局から説明をお願いします。

事務局

(資料の確認)

藤田委員長

それでは、議事に入ります前に、前回の「平成28年度 第1回久留米市生物多様性地域戦略検討委員会 議事録(案)」の確認をお願いいたします。何かお気づきの点がありましたら8月5日までに事務局の方へご連絡をお願いいたします。必要でしたら私の方で調整をさせていただきます、確定したものをまとめまして、市のホームページに公開させていただきます。

議事

議題1 久留米市生物多様性地域戦略の策定について

藤田委員長

それでは、議題1の久留米市生物多様性地域戦略の策定についてに入ります。①戦略素案について、事務局から説明をお願いします。

事務局

(資料「くるめ生きものプラン(仮称)～久留米市生物多様性地域戦略～」に沿って主な修正点を説明)

藤田委員長

ありがとうございました。事務局の環境保全課長から説明がありましたが、まず、前回の第1回検討委員会で出されたものと今回出されたものが違うのは表紙を見ていただければ分かると思いますが、前回の素案は行政として政策アドバイザーのアドバイスを受けながらまとめたもので、それを第1回検討委員会で審議した内容を元に委員会としてまとめたのが今回の素案でありますので、主体のあり方が異なります。今後、委員会として地域戦略(案)を取りまとめ市長に報告の後、行政の責任において市として地域戦略を策定するという段取りになっています。したがってこの素案については委員会で責任を持って取りまとめることとなりますので、お気づきの点などありましたら順次ご意見いただければと思います。藤田直子委員にご尽力していただいた「生物多様性セミナー&ワークショップ」の意見について取りまとめていただいておりますので、それを頭に置きながらご意見ください。

事務局

「生物多様性セミナー&ワークショップ」の意見についての資料は事前にお送りしたかったのですが、事務的な作業が遅れてしまい、本日準備する形になってしまいました。本当に申し訳ありません。事務局としてはこれらのご意見を整理し、修正点を検討していきたいと考えています。

藤田委員長

今、事務局の方から話がありましたが、先般の「生物多様性セミナー&ワークショップ」の意見として取りまとめられている資料がありますが、これらの意見のうち委員会で必要と認められた意見については反映させていきたいと思っています。

それでは、藤田直子委員より「生物多様性セミナー&ワークショップ」の紹介も含めてご意見をお願いします。

藤田委員

7月21日（木）に「生物多様性セミナー&ワークショップ」を開催し、久留米市の市民の方々、私が非常勤をしております久留米大学の2、3、4年生の学生、久留米高専の中畷先生の生徒の方々がいらっしゃいました。前半はセミナーとし、「くるめ生きものプラン（仮称）～久留米市生物多様性地域戦略～」を参加者全員にお配りした上で、市役所の瀬戸さんに1ページずつ説明をしていただきました。後半はそれを踏まえて、ワークショップといたしまして、6名程度のグループを5班作り、グループ内で戦略書のよい点、改善すると良くなる点、現状良くない点について話し合い、出していただきました。参加者の方々は貴重な時間をセミナーに割いていただき、この戦略に興味を持ち、より良くしていこうという思いで参加していらっしゃいますので、このワークショップの意見は極端なことを言えばすべて反映しようという意気込みで検討していただきたいと思います。このワークショップは開催することが目的ではなく、その意見を戦略書に反映し、よりよい久留米市生物多様性地域戦略を作ることが目的ですので、我々専門家が読んでも見落としそうで、一般の市民の目線で語られていますので、これが市民の生の声なんだとご認識いただき、ここで出された意見は市民の多くの方が抱く意見だということを念頭に置きながら、戦略書に適宜反映していただければと思います。

藤田委員長

ありがとうございます。それではここからはご自由にご意見を出していただければと思います。中畷委員、いかがでしょうか。

中畷委員

先日の「生物多様性セミナー&ワークショップ」に私の学生も何名か参加したのですが、藤田委員の言われるように、非常に厳しい意見を含めた市民の生の意見が出ているなど思

います。具体例を挙げると、「絶滅危惧種が身近にいる生物として出されている」といった意見のように良く見ていないとわからない指摘があがっているなど感じました。そういった内容の再チェックの必要を感じました。また、この戦略書は1、2章を子供向けとして作成していたこともあり、急に内容が難しくなっているという指摘がありますが、3章以降を保護者と学ぶことができるように作成すればよいのかなと思います。全体的な意見としては以上です。

藤田委員長

個々についての意見は後ほどいただきたいと思います。全体的なことについて永松委員いかがでしょうか。

永松委員

私も生物多様性セミナーに参加させていただいたのですが、私が気づかない意見が出ていたのでよかったなと思いました。

藤田委員長

執行委員いかがですか。

執行委員

前回の委員会での意見をずいぶん取り入れられていて、漫画チックになったのはよいと思います。日本緑化センターの自然緑化再生士特別認定講習会が大阪で2日間あり、それに参加した主人の受け売りなのですが、里山というのはその土地ごとに違った里山があり、久留米には久留米の里山があるので、久留米の里山にはどういった生き物がいるのが基本かなと思います。

藤田委員長

内田委員いかがでしょうか。

内田委員

全体的なことについては特にありません。

藤田委員長

山口さんいかがでしょうか。

山口オブザーバー

課題について整理され、個別の事業についても書かれ、戦略らしくなったなと思います。

藤田委員長

今田委員いかがでしょうか。

今田委員

私は執行部の方にも入っていますが、その中でも意見がはっきり固まらなかったのが、例えば3ページが窮屈に見えることです。ページ数の問題もあるのですが、2章までは子供向けということ踏まえて、もう少し見やすく、わかりやすくできないかと思います。また、個人的には「生物多様性について」が資料編に移ったことが適切か悩んでいましたが、代わりの説明もありますので、詳しいことが資料編に移るのは仕方がないこととは思っています。

藤田委員長

それでは、個々のことについて1章から順番に見ていきたいと思います。

まず、第1章「策定に当たって」の内容についてご意見をいただければと思います。前回、2ページにおいて「日本では3,597種がピンチ!!」となっていますが、久留米ではどうなのかという意見がありました。藤田委員いかがでしょうか。

藤田委員

市町村レベルの戦略書の重要なところは、これを読んだ市民の方々が自分のこととして受け止めて、こういう行動に移せばよいということが読むことでわかることだと思います。そのため、遠くの世界のことや、福岡県全体のことといった教科書や本を読めばわかる一般化された問題ではなく、自分自身のこととして捉えることができ、場所がイメージでき、自分がどういう行動をとればいいかわかる問題を取り上げていくことが重要で、「久留米はどうだ」ということをより多く入れるべきだと思います。

藤田委員長

事務局の方、久留米ではどういった生物が絶滅の危機にあるかを戦略書に記載することが出来ますか。

事務局

調査をほとんど実施しておりませんので、現時点では記載するのはかなり難しいかと思っています。逆にこの戦略を策定し、それを根拠としてそういった調査を実施する形になるかと思っています。

藤田委員長

久留米市内のどれだけの生物が絶滅の危機にあるかの具体的な内容はデータの関係で難しいということですが、何らかの形で久留米市の実態に文中で触れることができたかと思います。

藤田委員

福岡県の戦略やレッドデータブックといった資料には県全体や県内の地域別の情報が出ていると思うので、久留米市に限った情報ではないかと思いますが、よりエリアが絞られた情報を掲載できればいいのではないかと思います。

事務局

資料編の21～27ページに久留米市の希少野生生物ということで、今、藤田委員の上げられた出典からのデータを記載しております。このデータをベースとして記載することは可能かと思えます。

藤田委員長

それでは、その方向で検討をお願いします。山口さん、よろしいでしょうか。

山口オブザーバー

レッドデータブックでは生息場所をぼかして記載されているものもあるので、保健環境研究所とお話いただいて情報の確定をしていただければと思います。

藤田委員長

第1章の内容についていかがでしょうか

中畷委員

2ページの「ほ乳類のうち（クマやゾウの仲間）約21%」などの記述についてなのですが「ほ乳類（クマやゾウの仲間）のうち約21%」と記載したほうがわかりやすいのではないかと思います。

藤田委員長

事務局の方、今の中畷委員の意見について対応をお願いします。「生物多様性セミナー&ワークショップ」で意見が出ていた鳥類の絵の鳩からの差し替えもよろしくをお願いします。

事務局

検討します。

藤田委員長

3 ページの内容につきましては、先ほどの今田委員のご意見を参考に工夫をお願いします。

今田委員

なかなか内容は難しいと思いますが、ここがよくわかってもらいたい内容なので、個人的には1 ページずつにできないかと思います。

藤田委員長

永松委員いかがですか。

永松委員

3 ページの「原因のほとんどが人間の暮らし！！」というところなのですが、人間の暮らしがどう変化し、それが生き物たちにどう影響を与えたのかを理由を含めもう少しわかりやすくしたほうがよいと思います。

藤田委員長

子供や市民がより問題を実感できるようにするためですね。事務局の方よろしいですか。

事務局

たしかに前後のページを見たときにこの3 ページは非常に窮屈だとは感じていました。コマ割りについて検討します。

藤田委員長

その際に、今回の素案では資料編に移動した「3つのレベルの生物多様性」について本編で記述することはできませんか。「4つの危機」についての説明を本編ですることはできませんか。あまり記述を長くすることはできませんが。そのあたりのことについて藤田委員いかがですか。

藤田委員

「4つの危機」という言葉の唐突さは新たな疑問の原因になるかもしれませんね。

中寫委員

そのあたりに関連してなのですが、説明の順序は、現状の生き物のピンチについて取り上げ、生き物がいなくなることの影響を説明し、どうすれば生き物が戻ってくるか改善策を提示という流れがよいと思うので、3 ページの「原因のほとんどが人間の暮らし！！」

は「私たちがすぐにでも始めるべき行動」の前などに移動してもいいのではないかと思います。

藤田委員長

たしかに、その方が流れとしてはわかりやすいかもしれませんね。いずれにしても、第1章に記述することは必要だと思うので、そこを留意して文章構成を工夫していきましょう。

内田委員

10ページの課題にも関わってくるのですが、3ページの「原因のほとんどが人間の暮らし！！」の中の「外来種」について人間の暮らしが原因だとする説明がわかりにくいと感じました。特に小学生はとても興味を持つと思いますので、わかりやすい説明があればいいと感じました。

藤田委員長

戦後に、ブラックバスを食用として放流した結果、過剰に繁殖して害となっていることを子供に説明するのは大変かもしれませんね。

内田委員

子供たちの中には外来生物であっても生き物が増えるのはいいことであり、駆除することの方が問題だという考えの子供もいるので、その二面性については疑問を持つ子供がいます。

藤田委員長

日本の固有種が駆逐されることが問題なのだということがわかるような工夫が必要だということですね。

内田委員

子供たちは「生物を増やしたいが外来種は排除する」というような二面性に敏感なので、この問題が重たい問題なこともあり、さまざまな意見が出てくるだろうと思います。

永松委員

現に鎮西湖にはブラックバスがたくさんいて、子供たちが釣りを楽しんでいます。それなのに「外来生物は駆除しなければならない」と伝えれば、子供たちにも思うところがあるかと思います。



山口オブザーバー

子供向けに説明するのであれば、ミシシッピアカミミガメやアライグマなどに関連させて、「生き物を大事に育てよう」という方向性で記載した方がいいのではないかと思います。そういった題材のほうが子供たちにもわかりやすいのではないかと思います。

藤田委員長

わかりました。それでは事務局の方、そういった方向性で外来種の記述を工夫していただくということでよろしいでしょうか。

他に第1章の内容と関連して何かありませんか。

執行委員

皆さんの言われるように、3ページの「原因のほとんどが人間の暮らし！！」は難しい問題だと思います。たとえば、昔は俵などの材料に稲藁を使ったので稲の背が高かったのですが、それが不要な今は品種改良により稲の背が低くなり、結果として稲に隠れて鳥から身を守っていた蛙などが数を減らしているという問題があります。このように、子供にはどうしようもない大きな変革による改善を必要とする問題もあります。だから、この内容は後に移動させ、「考えよう」などといった形で問題についてやんわり認識させる方がよいと感じました。

藤田委員長

その他何かありますでしょうか。では第1章については一旦区切ります。第2章についてはなにかありますでしょうか。先日のワークショップでは9ページのタコノアシの色が久留米の色ではないという意見や、ドジョウは地域ごとに異なるのでよく調べてほしいといった意見が出てましたね。

藤田委員

そういった指摘がワークショップで得られた重要な指摘だと思います。また対応する際にも、たとえばタコノアシの写真が間違っているという指摘を受けたから写真を削除するといった対応ではなく、指摘された内容に対応する知識がないならば、ワークショップに参加された方を戦略書の作成に協力する専門家として扱い、わからないことはこちらから積極的に尋ね、よりよいものを作っていけばいいのではないかと思います。

執行委員

専門書としてみた資料の写真が間違っていたりしたら落胆するでしょうし、しっかりした対応が必要だと思います。

藤田委員

ひとつの間違いが全体のクオリティを低く見せてしまうこともあります。かといって我々では何が間違っているのか判断ができないので、詳しい方に聞くことで一つ一つ問題を適切に解決していくことか必要だと思います。

藤田委員長

そうですね。

執行委員

久留米市の「市の花」は久留米つつじとコスモスなのですか。

事務局

はい、「市の花」はその二つです。

藤田委員

6ページについて、戦略書の「生物多様性が重要だ」という文脈の中でコスモスを上げるのには、久留米つつじは久留米の特徴的な花ですが、コスモスはそうではないため違和感があります。

事務局

それは市町村合併によって増えた「市の花」だからかと思います。

執行委員

久留米つつじは久留米の弱酸性土壌で生育する在来種ですが、江戸時代に種子が持ち込まれた外来種なので、戦略書の方向性としては久留米ツバキ（正義）などを上げたほうがよいのではないかと思います。

藤田委員長

私も「市の花」という括りでの紹介をやめて「生物多様性の面から見て重要な久留米の花」という括りで正義を取り上げてはどうかとは思いました。事務局の方、そのあたりについて検討してみてください。

永松委員

6ページの「みんな知っているかな!？」はずいぶん紙面を割いていますし、もう少しいろいろなことを書くことができないかと感じました。

事務局

検討はしますが、市の紹介というパートでの問いですので、何かしら関連した括りが必要になるかとは思いますが。

藤田委員

コスモスに違和感があるのは外来種であるために文脈から外れていることが原因かと思いますが、それを押してまで「市の花」として取り上げる意味があるのでしょうか。

事務局

そのようにコスモスに違和感があるということでしたら、この設問自体を考え直すなど必要があるかと思えます。

藤田委員長

場合によっては資料編で「市の花」については紹介してもいいかもしれませんね。

内田委員

10～11ページの「現状と課題」についてなのですが、学校教育でも用いられるように課題、要因、改善策が揃った方がわかりやすいと思います。また「現状」として挙げられているのが課題、「課題」として挙げられているのが要因と改善策になっていると感じました。そのあたりが明確になればよりわかりやすくなると思いました。

藤田委員長

事務局の方、よろしいでしょうか。

事務局

検討します。

永松委員

先日のワークショップで久留米の lindou はフデ lindou であり、写真が間違っているという指摘がありましたが、写真はフデ lindou だったのでしょうか。

事務局

写真は県の保健環境研究所から久留米で撮った写真を頂いたのですが、久留米に咲いている lindou であることは確かですが、これがフデ lindou かは確認が取れていません。ですので、先ほど藤田先生がおっしゃられたように、指摘された方に確認し、写真を提供してもらうことを検討しています。

執行委員

久留米市内にリンドウを校章にしている高校があったと思うので、もしかしたら、何か関連があるかも知れません。

藤田委員長

事務局の方、そのあたりについての確認をよろしくお願いします。

山口オブザーバー

10ページの「課題 生きものの住む場所を確保する必要があります」が他の課題は具体的にどうすればよいか書かれているのに、ここだけ問いかけなどで具体的にどうすればよいか書かれていないのには何か意図があるのでしょうか。

事務局

「課題 生きものの住む場所を確保する必要があります」については、市が今後どう改善していくかを書いておりません。この部分については今後さまざまな政策を整理して構成する予定でしたので、現状、課題、要因に留めてはどうかと思います。

藤田委員長

事務局の方は、ご指摘のあった部分についての検討をお願いします。

事務局

この部分については、多数のご指摘がありましたので、小学生高学年にもわかるような内容になるよう、再整理をしたいと思います。

藤田委員長

12ページで「久留米市で身近に見られる生きもの」となっていますが、身近にいないこともあるので身近には必要ないという意見がワークショップで出ていましたが、「久留米市で見られる生きもの」と変えてもいいのではないかと思います。

その他何かありますでしょうか。では第2章については一旦区切ります。第3章「目指す社会」についてはなにかありますでしょうか。

このタイトルについてはワークショップで「目指す久留米」と身近に感じられる表現に変更したほうがよいという意見が出ていましたが、「久留米生き物プランの目指す社会」のように明確にしてもよいかと感じました。また、15ページの「2050年には、どのようなまちになっているのでしょうか？」という記述が小さく、ワークショップではこれが現在の姿として紹介していると取り違えた意見も散見されたので、もう少しわかりやすく記

述できればよいと思います。

第3章以降、小学校高学年には難しい内容になるかと思いますが、どう思われますか。

内田委員

このあたりが最終的な学習内容になるかと思いますが、この内容なら大丈夫かと思えます。ただ、章の組み立てを変更するのは難しいかと思いますが、子供たちの思考の順番としては、「第4章 政策の方向性」で久留米市の政策を知り、「第3章 目指す社会 5. 私たちがすぐにでも始めるべき行動」から、自分になにができるかを考えるという順番かと思えます。

藤田委員長

その他、第3章の個々の内容について、何かありませんか。

藤田委員

文章の書き方についてなのですが、一般の市民の方が読んだときに行動を促される書き方のほうがよいと思うので、16、17ページは「～しよう」に書き方を統一したほうがよいと思います。

藤田委員長

それでは事務局の方、検討をお願いします。

事務局

わかりました。

藤田委員長

15ページの「農薬や化学肥料は必要な分だけしか使われず」という部分についてワークショップでも意見が出ていましたが、2050年のことですので、有機農業が主流になることも考え、わざわざ農薬、有機肥料について記述する必要はないのではないかと思います。

藤田委員

ワークショップでも意見が出ていましたが、「社会」、「市民」、「地元」は「くるめ」に書き直したほうが、より実感を得ることができるのではないかと思います。

藤田委員長

その他、いかがでしょうか。自分の実感として、久留米の緑が減っていると感じるので

すが、皆様はどう感じられますか。

執行委員

剪定のやり方が、木を植えた意義がなくなるような過剰なものが見受けられるように感じます。おそらく、交通の妨げにならないように、落ち葉清掃の負担を軽減するためなど考えた結果なのでしょうけれど。

藤田委員長

植える木の種類を落葉樹以外にするなどの対策も必要なのかも知れませんね。

執行委員

そういった剪定の仕方がおかしい木があると市外の方に見られるのが恥ずかしいと思うことがあります。

藤田委員長

久留米市には木陰を歩けるような都市であってほしいと思います。そういったことも絡めて、15ページの「市街地の姿」の表現に市民の方は満足しているのかなと悩んでしまいます。

中畷委員

16ページの「省エネ」についてなのですが、「エネルギーには限りがあるので大切にしよう」という視点の記述も含めた方がいいのではないかと思います。

藤田委員長

ごもつともだと思いますが、生物多様性地域戦略という文脈からは外れるかと思います。その他いかがでしょうか。

では第3章については一旦区切ります。第4章「施策の方向性」について何かありますか。内田委員、学校の授業にこの資料をそのまま使うと考えると、いかがでしょうか。

内田委員

この部分については、市役所の職員の方に説明に来ていただかないとわからないかと思っています。そうでなければ、「たくさんの取り組みがなされているのだなあ」という印象で、子供の頭で考える以上の取り組みがなされていることは伝わるかと思っています。

藤田委員

ワークショップを行った印象からいうと、「市が作る資料には事情により入れなければならない情報がある」ということに一定の理解を示されている方が多く、「わかりにくいから削除すべきだ」といった厳しい意見は少ないように感じました。

内田委員

19ページの「生きものの移動等に配慮した工事の推進」では具体的な事業などが上げられていない理由は何かあるのでしょうか。上の青字と下の黒字が全く同じで違和感があります。

事務局

具体的な事業がないのがその理由ですが、建設部門ではそういった工法を取り入れることもあるため、建設部門に了解を取って記載しています。

藤田委員長

久留米市で行われているかはわかりませんが、生き物の生息域を遮断しないために、工法として生き物用の通り道を作ることもあります。こういった実例も踏まえて記載する等の工夫を事務局の方、お願いします。

山口オブザーバー

今ここに上がっているのは、基本的に今久留米市で行われている事業が整理されているのですよね。これから行われようとしている事業についての記載はしないのでしょうか。

事務局

環境部以外の事業は、基本的に現在行われている事業があげられており、環境部が新たに打ち出す事業としては、環境まなびのまちづくり事業が重点施策として挙げられています。

山口オブザーバー

目立つ事業があるなら個別に書いたほうが目立っているのではないかなと思います。

藤田委員長

県で行っている久留米でも行ったほうがよい施策は何かありますか。

山口オブザーバー

県の方で公共工事を行う際の環境に配慮した工事の指針を作成していますので、他の部局にも環境への配慮を広めることができるので久留米市でも作成してみてもどうかと思います。

ます。

藤田委員長

また何か参考になる情報がありましたら教えてください。

22ページで重要なのは、重点指標に何を挙げ、何を目標にするのかだと思いますがどう思われますか。

指標の目標年度が統一されていないのには何か理由があるのでしょうか。

事務局

関連する計画が環境政策課、農政部など部署ごとにあり、その目標を記載しているため、統一することができません。

藤田委員長

22ページの「自然を守り、暮らしにつなげる人の育成」の生物多様性認知度の目標値が33%であることについて、皆様はどう思われますか。また、資料編15ページの間9で「自然や生きものを守るための活動や行動をしている」と答えた方が、間10でその内容を「旬のもの、地のもをを食べる」が最多であるのを見ると、これでいいのかと思うところはあつたものの、「自然や生きものを守るための活動や行動をしている」人の割合といった指標があつてもいいのではないかと思うのですがいかがでしょうか。今挙げたこと意外でも重点指標について、何かお気づきのことはありませんか。「緑の量」などは320haから346haというのは自分には控えめに感じてしまうのですが。

事務局

「緑の量」については農政部の計画で設定された値なので変更は難しいです。

藤田委員

市の事情として宮ノ陣クリーンセンターを出したいという事情はわかるのですが、21ページの「環境学習の機会や情報の提供」に生物、生きもの、生態系といった戦略にふさわしい文言を入れることはできませんか。現状、生物多様性との関わりが隠れてしまうように感じてしまいます。

事務局

今の文言は端的に環境交流プラザを紹介したものになっているので、ご指摘のとおり変更させていただきます。

藤田委員



6つの重点指標に挙がっていることもあるので、しっかりとした根拠付けは必要かと思  
います。最善は、環境交流プラザに生物多様性を学ぶ機能をつけることかと思  
います。

事務局

学習ルームには生物多様性を学ぶ機能があるので、戦略に沿った文章に変えることは可  
能です。

藤田委員長

ビオトープなどにそのような機能をつけることができるといいのですが、今はまだ難し  
そうですね。

今田委員

環境交流プラザは年間3万人と目標を出しているのですが、認知度の目標値を出す際、  
生物多様性についての事業も含まれる環境まなびのまちづくりの目標人数を待ち出すか、  
生物多様性関係のみの数字を挙げるかどちらがいいでしょうか。文脈からいえば後者が適  
当ですが、その場合数値が小さくなってしまいうのが問題です。

藤田委員長

私は環境交流プラザを資料編に移し、「自然や生きものを守るための活動や行動をしてい  
る」人の割合などの指標を持ち出したほうが納まりがよいと思うのですが、事務局の方、  
検討していただけますか。

その他、いかがでしょうか。

では第4章については一旦区切ります。第5章「生きものプランの推進について」につ  
いてはなにかありますでしょうか。内田委員、学校の授業にこの資料をそのまま使うと考  
えた場合、いかがでしょうか。

26ページのPDCAサイクルで「戦略の改訂」についてなのですが、訂正ではなく定め  
るという意味で「戦略の改定」にしたほうがよいのではないかと思います。

山口オブザーバー

今まで、他の部局とはどのように協議されたのですか。

事務局

昨年、現状の計画・施策を照会し、素案ができた際には全体的な確認と修正をお願いし、  
その後行われた直接的な協議については例えば農政部とは担当者に集まっていたき会議  
をし、修正するごとに協議をしています。今後は、この委員会やワークショップなどで出  
た修正を確認し、9月の環境都市づくり委員会に提出、10月の環境審議会で確認、議会

報告、11月にパブリックコメントをするという予定になっています。

山口オブザーバー

多数の部局が戦略について進行管理をする中で、定期的に会議をすることは難しいでしょうか。

事務局

第5章の中で市の役割として「市の関連する戦略や計画への生物多様性の視点の導入を進める」と書いている件に関わることだと思いますが、具体的にどうするかは現段階では決まっています。ただ、現段階でも庁内での環境都市づくり委員会で庁内での情報共有はできるのではないかと考えています。

藤田委員長

PDCA サイクルの中心に環境審議会があるのですが、環境審議会がこれについての進行管理を行っています。

では第5章については一旦区切ります。全体を通してなにかありますでしょうか。

検討委員会としては今日のご意見を踏まえて案を調整し、検討委員会の案として固める予定です。

中畠委員

個人的には外来種としてスクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）を挙げてはどうかと思います。

藤田委員長

事務局の方、検討をお願いします。永松委員いかがでしょうか。

永松委員

ドジョウが「身近に見られる生きもの」と「絶滅が心配されている生きもの」に挙げられているので混乱を生むのではないかと感じました。

藤田委員長

それでは、「くるめ生きものプラン（仮称）～久留米市生物多様性地域戦略～」の（仮称）を取ってもよろしいでしょうか。それでは（仮称）を取り、今日出していただいた意見をまとめて案を作成したいと思います。

それでは、次の議題「②資料編について」に移りたいと思います。それでは資料編について事務局の方に説明をお願いします。時間の関係で、今お気づきのところがあればご意

見いただき、また後日にご意見をいただくようにしたいと思います。

事務局

(資料「くるめ生きものプラン (仮称) 資料編」の構成を説明)

藤田委員長

資料編についてご意見があれば10日以内に事務局に出していただくようお願いいたします。

事務局

出されたご意見については、今日出ましたご意見も含めて検討したいと思います。

藤田委員長

用語解説もしていますので、用語ごとの解説の要不要についてもご意見ください。

それでは、次の議題「③今後のスケジュールについて」に移りたいと思います。事務局の方、説明をお願いします。

事務局

(資料「今後のスケジュールについて」の説明)

藤田委員長

今日頂きましたご意見は事務局が整理しまして、10月の環境審議会に検討委員会の案として提出する予定です。その後パブリックコメントをいただきそれを反映した最終案を翌年1月の検討委員会で検討し、取り纏めます。それを2月の環境審議会に提出し、策定をするというスケジュールになると思います。

今後のスケジュールについて何かご質問はありますか。

藤田委員

ワークショップでこのような機会は一回しかないのか、自分の意見が反映されたかの確認、更なる意見を出すことはできないのか、資料を持ち帰ることはできないのかという意見が出ました。市役所としてはパブリックコメントで更なる意見を出していただき、著作権に関わる写真などを抜いた資料は配布することができるということでした。私の意見としては、積極的に意見を出された方々の梯子を外さないために、パブリックコメント以前に出された意見の反映された資料を配布する、パブリックコメントの募集を事前に呼びかけるなどフォローが必要だと思います。

藤田委員長

本日の検討委員会や環境審議会の傍聴についても広報していますので、それを含めてパブリックコメントの募集等周知していければと思います。

事務局

7月のセミナーの後、参加された団体、新たに希望された市民の方に著作権に関わる写真などを抜いた資料を送付しています。

藤田委員

この戦略は小学6年生にも理解できることを目的としていますので、多世代で考えたことをアピールする意味でも、小学6年生に戦略作成前の資料を見ていただき、意見をいただく機会を作ることはできないか考えるのですが、いかがでしょうか。

事務局

今年度のうちに学校現場で対応するのは難しいと思いますので、個人的にはパブリックコメントの募集の時期に合わせて意見を集めてはどうかと思います。いずれにしろ、前向きに考えさせていただきます。

藤田委員長

この第2回久留米市生物多様性地域戦略検討委員会では貴重なご意見をいただき有り難うございます。これで目標の9合目に至ったかと考えています。それではこれもちまして第2回久留米市生物多様性地域戦略検討委員会を終了させていただきます。

閉会

以上